



**栄光園だより**  
第107号

2017年4月30日発行  
発行  
社会福祉法人 栄光園  
別府市南荘園町3組  
〒874-0904 電話 (23) 2827  
振込口座 01930-2-20748

編集 広報誌編集委員会  
印刷 大野印刷株式会社  
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

# 子どもは社会の宝

青山保育所 原田 康子



1951年5月5日に定められた児童憲章の最終章に「すべての児童は、愛とまことによって結ばれ、良い国民として人類の平和と文化に貢献するよう導かれる。」と結ばれております。

児童憲章は、私たちの目指す子育てのゴールであり、人類の平和と文化を支えるのは子どもであるとの認識を社会全体の合意として了解されていると思います。ところが、この子どもたちが成長した時の社会はどうなっているのでしょうか。最近ではテロや戦争といった悲しいニュースを聞く機会が多くなり、先の見通しが立てられない大変不透明な時代です。だからこそ、出生数も年間100万人を下回るようになって今、しっかりと子育てが求められております。

私は、大学卒業以来児童福祉に人生の大半をささげるさいわいを得ました。社会をより良くするのに最も効果的でふさわしい場所は、生まれて間もない子どもたちが通い、子育て経験に初めて取り組む保護者と接することのできる保育園だと思っております。

栄光園には、社会的養護を担う乳児院や児童養護施設もあり、私は、保育所経験が長いのですが、児童養護施設で中高生の養育に携わる経験をして、この4月より保育所の所長として赴任することになりました。中高生の生活状況に接して、乳幼児期の親のかかわり、大人のかかわりの大切さを思い知らされました。愛着の問題を、年齢にかかわらずいつまでも持ち続けている子どもが多いこと、その問題が解消されることがなく、乗り越えられずいつまでもこの問題にとらわれているこ

とを知りました。私たち身近な大人がどんなに一生懸命に関わっていても満たされないものがありました。親に代わる存在はない。親は唯一無二の存在なのだということを強く感じ、落胆することもありました。それでも前に進まなければなりません。どの職員も心の中で葛藤しながら養育に取り組んでいます。ところが、つい先日「花ちゃん味の汁」の花ちゃんを取り上げた助産師内田美代子氏の講演で、社会学の世界的な研究資料による「子どもがちゃんと育つには、たった一人の大人がいればよい。それは親でなくてもよい。」とのお話を聞き、養育者としては励まされましたし、そのような大人になるべく成長していけるよう励んでいきたいと思えました。

「思春期の礎は乳幼児期にあり」この乳幼児期のかかわりが思春期をうまく乗り越えられるかを左右します。子どもは親子関係を越えてお友だちや外との関係を求めて巣立とうとします。3歳くらいまでが親子関係の密度が最も高い時です。親子にとってかけがえない楽しい子育ての時間となるよう働きかけていきたいと考えています。親子が、幸せな時間を紡いでいけるよう、子どもたちの成長を援助し、子育てを楽しめるよう保護者の皆さんとは子どもたちの成長を確認しあいながら、子どもたちの成長を保護者の皆さんと喜びをわかちあっていたいと考えてお

ります。この乳幼児期に培った親子関係は、子どもたちが将来社会に巣立った時に人間関係を作っていく基礎となっていくでしょう。

今が不透明な時代だからこそ、次の時代を担う社会人を育てていくことが、社会に課せられた課題ではないかと考えます。子育てこそ次の時代を確かなものにする鍵、社会全体で子育てを支援する体制を整えるべきだと思えます。子どもは社会の宝ですから。



## 児童養護施設

### 公立高校入試を終えて

児童指導員 大野 将也

中高生男子が生活をしているウエストホームでは、3月に2人の中学3年生の児童が共に同じ公立高校を受験しました。

2人ともこれまで学習習慣がほとんど身に付いておらず、公立高校合格は難しく感じていました。しかし、2人

と同じ高校に通うことを目標に掲げ、6月の部活引退後より学習時間を設定し、学習を最優先に、趣味や好きなことも我慢し、毎週土曜日には学習ボランティアの安東様、井上様による学習指導を受けながら、日々学習に励んできました。

そんな中迎えた3月10日の合格発表当日。高校に向かう車内で「どっちかが落ちて、どっちかが受かるのが一番最悪だな」と冗談を交わしながらも、2人とも緊張の面持ちで向かいました。

ドキドキの中で掲示板を見る2人。1人の表情は笑顔でしたが、もう1人の顔は曇っていました。笑顔だった彼も、その曇った表情を見て、一気に笑顔が消えていきました。

2人で掲げた一緒の高校に通うという目標は残念ながら叶うことなく、冗談で言っていた最悪の結果が待ち受けていたのです。合格した子は、嬉しいはずなのに、目にいっぱい涙を溜め、「お前が一緒じゃなかったら、合格しても嬉しくないわ」と一言。不合格だった子も、合格した子に「おめでとう。良かったな」と気丈に振る舞っていました。

「お前が一緒じゃなかったら、合格してあふれ、2人して涙を流していました。互いに受験勉強の苦しみを共有して

いく中で、公立高校合格が共通の目標になり、2人の間に絆が芽生えていたのです。2人にとっては「こんなに勉強したことはない」というくらい、勉強に取り組んできましたが、それもま

た2人一緒だったから乗り越えることが出来たのではないかと思います。

2人の頑張りを間近で見ただけに、この結果はショックでした。しかし、合否の結果よりも、互いが互いを思いやる優しい気持ちが2人ともに育っていることを実感し、そんな2人の優さを嬉しく感じました。

今日のごはんは何？

管理栄養士 佐藤 朱美



子どもが「たたいま」と学校から帰ってきた時、「おかえりなさい」と言う職員の声とともに聞こえてくるのは、トントンと野菜を切るまな板の音やグツグツと煮える鍋の音、そして匂い。栄光園では、6軒のホームそれぞれに台所があり、そこで朝昼晩とすべての食事を作っています。「お腹すいた。今日のごはんは何？」と台所にやってきては鍋を覗き、「うわー、美味しそう！味見させて！」とお皿を取り出す。一般的な家庭でも見られる姿が、ここ栄光園でも見ることが出来ます。そんな家庭的な環境を持つ栄光園で、私は栄養士として働いています。栄養士の仕事はまず、1か月の献立を考えることから始まります。6軒のホームは毎日同じ献立で統一されているのですが、子どもは3歳から18歳。嗜好や適切な食形態が異なります。そこで大切なのが調理員や児童指導員などのホームで料理を担当している他職種との連携です。

まずは私の独り立ち

キャサリンホーム 羽明 華野子



この春より、児童養護施設栄光園のキャサリンホームで働くことになりました。 羽明華野子

です。中学の頃より保育に興味があった私は、大学で保育や幼児教育、社会福祉について学んできました。大学三年次に行った児童養護施設での実習を機に、児童養護に関心を持つようになり、地元である大分県の児童養護に携わりたいと思い栄光園に就職しました。 一か月間の研修を終え、この四月より独り立ちをします。不慣れなことも多く不安と緊張もあります。しかし、四年間大学で学んできたことを十分に活かしながら、子どもたちを信じ、子どもたちとの毎日を大切に過ごしていきたいよう日々精進に励みたいです。よろしくお願いたします。

日々新たな経験

ムラカミホーム 奈須 琴海



私は、4月から栄光園のムラカミホームで働かせていただくことになりました。 奈須琴海と

申請します。今春、福岡にある中村学園

乳児院



乳児院は、3月に3人のお友だちが退所しました。新年度になり、新しい職員を迎えて、より一層子どもたちの健やかな育ちを支えるために職員一同頑張っていきたいと思えます。

大学短期大学部を卒業し、保育士となりました。まだまだ分からないことばかりで不安もありますが、日々様々なことを経験しながら頑張っています。特に子どもたちとの関わり方や声掛けなどはまだ経験も浅く、どのようにしたらよいか戸惑うことがあります。しかし、周りの先輩職員に教えていただくことや、子どもたちから多くのことを学んでいます。 また、子どもたちとの信頼関係も、これからまだまだ作っていくかなければなりません。まずは1日の中で何気ない会話が多く交わされるように積極的にコミュニケーションをとっていききたいです。そして、子どもたちと関わっていく中で私自身を振り返る機会が増えました。子どもたちの成長を感じながら、私自身も日々成長出来るよう努力していきたいです。さらに、料理も子どもたちに少しでも美味しい料理を食べてもらえるよう頑張りたいです。どうぞ、よろしくお願いたします。

りす組にお空が見えたよ!

りす組の子どもたちは、まだまだ「ねんね」の時期で、天井を見ていることが多いので、青空のシートを貼り風船や虹も貼ってもらいました。工事が終わり、部屋に戻ってきた子どもたちは、雰囲気が違うのがわかったようでキョロキョロしていました。大人も子どもと一緒に寝そべって天井を見てみると、まるで外にいるかのように部屋の中に青空が広がっているようでした。これで雨の日もりす組さんだけは晴れだねと子どもたちに言ったのでした。



とどくかな?

この頃自分の手を眺めて遊ぶのがブームになっているAちゃん。ずいぶん両手がのびてくるようになりました。

そのような機会を設けていくことも栄養士として大切な役割なのです。

新規職員よりごあいさつ

良き援助者に

マツモトホーム 都甲 春菜



この4月から児童養護施設栄光園のマツモトホームで働くことになりました都

甲春菜です。 私は、小学4年生から高校3年生まで、バントトワリングというスポーツをしていました。体を動かすことが大好きです。また、音楽鑑賞や映画鑑賞が好きで、ライブに行ったり、映画館に行くことも多いです。

私が児童養護施設で働きたいと思ったのは、大学3年生の実習を通して、この仕事は自分の関わり方ひとつで、その子の人生や人格形成に大きく影響してくるとてもやりがいのある仕事、人の役に立てる仕事だと思ったからです。

まだまだ未熟で、ご迷惑をおかけすることがあると思いますが、毎日、子どもたちと関わり、より良い援助者となれるよう日々努力していきたいです。どうぞよろしくお願いたします。

2017年度 1月~4月1日 社会福祉法人 栄光園 職員の採用・退職・異動	
4月 新規任命	青山保育所 原田 康子(所長 4月1日付)
2月 採用	乳児院 松田真由美(調理員等 2月3日付)
4月 採用	児童養護施設 羽明華野子(保育士 4月1日付) 奈須 琴海(保育士 4月1日付) 都甲 春菜(保育士 4月1日付)
3月 退職	乳児院 藤田 直美(調理員等 3月31日付) 青山保育所 小久保次郎(所長 3月31日付) 小松 厚子(保育士 3月31日付) 多治見敬子(保育士 3月31日付) 梶原千亜紀(保育士 3月31日付) 廣岩 茅乃(保育士 3月31日付)
4月 退職	乳児院 松田真由美(調理員等 4月1日付)
4月 異動	児童養護施設 城まり(保育士 4月1日付 青山保育所より)

キングを、ぞう組1年生のお友だちはドロケイをして遊びました。それぞれ1年間かけて活動してきた集大成としてお家の方と一緒に参加してもらいました。ぞう組2年生のお友だちはお母さん、お父さんに見守られながら包丁を使って食材を切ったり、もはや達人技ともいえるラップおにぎりを作ったりしました。ぞう組1年生のお友だちは「お母さんにタッチする!!」と張り切って遊ぶ姿が見られました。



前回の保育参観の時と比べてクッキングでお友だちと協力する姿、ドロケイでタッチされて悔しい気持ちを押さえてルールを守って遊ぶ姿、どちらもさらに一段階お兄さんお姉さんになった姿のあらわれではないかと思えます。子どもたちにはこれまでの経験を持って小学校や幼稚園に行ったり、ぞう組2年生になったりしてそれぞれの次のステージで活躍してもらいたいと思います。

メリーも好きで、じつとながめていたが、ある時両手をのばしてメリーについているマスコットを触ろうとしていました。今までは、じつと寝ていたAちゃんでしたが、少しずつ手や体が思うように動くようになって活発になってきたようです。こうして一つ一つできるようになったことを子どもと一緒に喜べるのは、私たち職員もとても幸せだなと思います。



「みんなことでもできるよ!」

「みてみて!」と得意げに滑り台をすべっているSくん。今年のお正月は、まだ危なげに歩いていたので、毎日元気に外遊びやプレイルームで遊びこんだおかげ(?)でひとり滑り台を滑れるようになりました。とても好奇心旺盛にいろんなことにチャレンジをして、成長をしていく子どもたちにこれからもいろいろな体験や経験をしてもらいたいなと思ったのでした。S

くん、次は何にチャレンジするのかな?



### 青山保育所

#### 発表会、頑張ったね!

12月に発表会がありました。ぞう組の子どもたちはお友だちと協力して練習に練習を重ね、期待を持って当日を迎えることができました。自宅でもダンスを踊ったり、劇のセリフを言ったりして練習をしているお友だちがいたり、お家の方に内容がわからないように内緒で練習をしたりするお友だちもいたようです。練習の時に、保育士に「こうしたらもっといいの!」と意見を言う姿も見られ、自分の考えをしっかりと主張し、子どもたちが前向きに取り組んでいる姿に成長を感じました。子どもたちの意見も取り入れながら、一緒にプログラムを作り上げていく過程はぞう組ならではの楽しい経験だったなと感じました。

#### 新春餅つき大会をしました

みんなでお餅をついたり、まるめたり、つきたてのお餅を食べたりしてとても楽しい一日となりました。この日はおじいちゃん、おばあちゃん方に教えてもらいながら日本ならではの餅つきを体験することができました。ご協力いただいたおじいちゃん、おばあちゃん方ありがとうございました。また来年もよろしくお願いします!



#### ゆきがふってきた

今年一番の寒波で大雪が降った朝のこと、雪で真っ白な園庭に子どもたちは大喜びでした。きりん組のお友だちも雪の降る中、園庭に出て、雪を触ったり、雪玉を作って友だちや保育士と



投げ合ったりして遊びました。雪が降ってきた嬉々として遊ぶ半面、「さむい!」と涙目になってしまいう姿もあつたりとさまざまでした。また、次の日も寒いという予報だったのできりん組でバケツに水をはり、氷作りをしました。次の日登園してみると見事氷が出来ており、子どもたちも大喜び! 「つめた〜い」といながらも氷を触ったり、氷を顔に近づけて覗いてみたりと楽しそうに遊ぶ姿がありました。雪や氷といった冬の自然を思う存分味わうことが出来、子どもたちにとって冬のいい思い出になったことでしょう。

#### 保育参観がありました

1月末より2月末にかけて青山保育所では毎週1クラスごとに保育参観を行っています。2月末のぞう組保育参観では、ぞう組2年生のお友だちはクッ



### 聖書の言葉

聖書 詩編50編15節

「わたしを呼ぶがよい。苦難の日、わたしはお前を救おう」

別府不老町教会 牧師 齋藤 真行

私たちは言葉を発するとき、自分の伝えたい内容を言葉として伝えます。私たちが「内容的になにを語っているのか」ということが、コミュニケーションの中心の課題だと考えています。

しかし、コミュニケーション理論によると、言葉を受け取る側は、60〜70%以上のメッセージを「非言語」の部分で受けとめている、と言われます。その「非言語」とは、身振り手振りや「雰囲気」から成り立つものですが、その本質は発信者の「感情」です。

たとえば、「あなたの言っていることはわかりません」という内容を、怒りや恐れに満ちた感情をこめて言うのと、微笑を浮かべて軽やかに言うのでは、聞く側はまったく違うメッセージを受け取るでしょう。言葉

の内容よりも、「発信者はどのような感情に基づいて語っているのか」の部分を受け手は敏感に察知して、そちらに発信者の「本音」が隠されていると考えるのです。

これは子どもとやり取りするときには、非常に大きな課題です。子どもは大人のイライラした思いや、怒りや不安、恐れ、喜びやうれしさといった「感情」を第一のメッセージとして受け取ります。言葉の内容は完全に二の次です。養育する大人の側が「どんな感情を抱きながら生活し、言葉を発しているのか」ということが、子どもの精神的・人格的状态に大きな影響を与えるのです。養育者の感情の安定が、子どもの安定した成長にとって、なによりも大切な基礎になります。大人の側が、感情的に浮き沈みが大きく、不安や恐れに基づいてイライラした言葉を発し続けているときには、子どもは大人と同じように不安定になります。子どもを見守っている一人

ひとりが、安らかな思いをどのように確保するのか、ということが、子どもの成長にとってとても大切な課題です。

聖書は、私たちの思いが乱れるときに、心から頼ることができると神を紹介する特別な書物です。聖書は私たちが苦しみに耐えなくてはならないときの「迷れ場」として神の存在を語っています。「わたしを呼ぶがよい。苦難の日、わたしはお前を救おう」(聖書 詩編50編15節) 私たちの感情が沈み込み、どうすることもできなくなるとき、呼びかけることができる愛に満ちた存在が共にいて、「お前を救おう」と語ってくださるとするならば、私たちの心は安らぎを覚えるでしょう。自分が一人ぼっちではないことを知るからです。

聖書の言葉は、私たちの思いを平安に導く知恵と慰めに満ちています。





### 未来に向かって

3月25日、社会福祉会館にて卒園式を行いました。4、5歳児24名の子どもたちが巣立っていきました。卒園式当日は子どもたちも保護者の方も職員もみんなドレスアップをしていて、いつもと違うそれぞれの姿に戸惑ったり恥ずかしがったりしていました。子どもたちは保護者のみなさんの前で一年間の思い出を元気よく発表したり、歌を歌ったりして最後のステージに立ちました。その時の子どもたちの凛々しい姿や表情は、ドレスアップされた洋服のせいだけではなく、この保育園生活で成長した証なのだと思います。卒園する子どもたちは仲良しのお友だちと会えなくなってしまうという寂しい気持ちはあるようですが、それよりもこれから幼稚園や小学校に行くという期待や希望に胸が膨らんでいるようです。今度保育園に遊びに来てくれた時にはどのような姿になっているのか、とても楽しみです。

### 野口保育所

新しい年度が始まりました。今年度も職員一同身を引き締め、資質向上を目指し子どもたちが安全で楽しい保育が出来るようにしていきたいと思えます。今年度もよろしくお願い致します。

### まめまき

2月3日は「節分の日」今年度は参観日の内容に取り入れ、保護者の方に



### 避難訓練

今年も2月に総合避難訓練を行いました。毎月行っている避難訓練ですが、消防署の方に来てもらうとまた違う雰囲気です。消火の仕方、通報の仕方など改めて学びました。熊本・大分地震がおきて1年が経ちます。いつくるかわからない震災：日頃からの訓練を糧に子どもたちを守れるようにしていきたいと思えます。



### ひなまつり会

3月3日にひな祭り会をしました。各クラスの飾りを全て飾り華やかな雰囲気になりました。



### お別れ遠足

1年間一緒に過ごしたお友だちや保育士と一緒に小さいクラスは近くの公園や河川敷にお散歩に行ったり、4歳・5歳児は山形と鉄輪地帯公園に行ってきました。公園ではお弁当を食べたり、たくさん遊んだり、お友だちや保育士とたくさん楽しい思い出が出来た一日でした。公園で一緒に過ごす中で、4月に入った頃のまだまだ幼かった頃の子どもたちを思い出して、1年間の成長に少し胸が熱くなった保育士たちでした。



### お別れ会

今年「大きくなったら何になりたい？」をテーマに担当の先生が卒園する子どもたちと沢山話し、等身大のなりたい物で登場しました。卒園児も見ている在園児も興味深々で楽しく笑いのある会でした。お昼ご飯は給食の先生にお弁当にしてもらい卒園児は好きなクラスに行ってお別れ、良い思い出になったようでした。



### 卒園式

3月25日には2016年度の野口保育所の卒園式が行われました。今年17名の子どもたちが元気いっぱい野口保育所を巣立って行きました。子どもたちがこの場所でも元気に頑張ることを願って、応援したいと思います。

## 「子どもの日」に想う

児童養護施設 江口 敏一

第二次世界大戦で300万人の国民を失い、1947年5月3日新たに施行された憲法、第25条「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」のもと、貧困対策として「生活保護法」(50年)、戦災孤児対策として「児童福祉法」(47年)、傷痍軍人対策として「身体障害者福祉法」(49年)の福祉三法が制定されました。

この憲法の「すべて国民は」とは「日本国籍を有している人はすべて」という意味で捉えると、児童福祉法の「すべて児童は」とは「この法律の及ぶ範囲の児童はすべて」と解釈できます。在日外国人の児童も含むわけで、先日発生した、在日外国人小学生の事件は心が痛みました。

この児童福祉法に続く、児童憲章は、'49年に中央児童福祉審議会が制定案が出され、児童憲章制定準備委員会が設立され、'51年に児童憲章草案準備会による草案を内閣総理大臣が国民各層から選任された児童憲章制定会議に提出し、決議を経て、国民の祝日である「子どもの日」にちなんで5月5日に宣言されています。

児童憲章は、大人と同じように子どもも人間として尊ばれることを謳っていて、人間は生まれながらにして尊厳ある存在として位置づけています。

児童憲章の本文では、家庭のあり方や児童の保護、児童に対する社会のあり方や教育を受ける権利、児童家庭福祉の目的などが挙げられています。

この児童憲章は、国連の児童権利宣言(59年)よりも前に作成されています。すべての児童の幸福を図り、その実現に努力することが最終目標となっているわが国の児童憲章は、とても意味深く、世界に誇ることが出来る美しい憲章であるといえるでしょう。

栄光園では、職員会議の初め、黙とうに続きこの児童憲章を朗読して心を引き締め、養育の具体的な指針を常に確認いたしております。

われらは、日本国憲法の精神にしたがい、児童に対する正しい観念を確立し、すべての児童の幸福をはかるために、この憲章を定める。

- 児童は、人として尊ばれる。
- 児童は、社会の一員として重んぜられる。
- 児童は、よい環境のなかで育てられる。



- すべての児童は、心身ともに健やかに生まれ、育てられ、その生活を保障される。
- すべての児童は、家庭で、正しい愛情と知識と技術をもって育てられ、家庭に恵まれない児童には、これにかわる環境が与えられる。
- すべての児童は、適度な栄養と住居と被服が与えられ、また、疾病と災害からまもられる。
- すべての児童は、個性と能力に応じて教育され、社会の一員としての責任を自主的に果たすように、みちびかれる。
- すべての児童は、自然を愛し、科学と芸術を尊ぶように、みちびかれ、また、道徳的心情がつつかわれる。
- すべての児童は、就学のみちを確保され、また、十分に整った教育の施設を用意される。
- すべての児童は、職業指導を受ける機会が与えられる。
- すべての児童は、その労働において、心身の発育が阻害されず、教育を受ける機会が失われず、また、児童としての生活がさまたげられないように、十分に保護される。
- すべての児童は、よい遊び場と文化財を用意され、わるい環境からまもられる。
- すべての児童は、虐待、酷使、放任その他不当な取扱からまもられる。
- あやまちをおかした児童は、適切に保護指導される。
- すべての児童は、身体が不自由な場合、または精神の機能が不十分な場合に、適切な治療と教育と保護が与えられる。
- すべての児童は、愛とまことによって結ばれ、よい国民として人類の平和と文化に貢献するように、みちびかれる。

